

## モロッコ

## 主要データ

国名〔英名〕	モロッコ王国 [Kingdom of Morocco]
面積 (km <sup>2</sup> )	446, 550
海岸線延長 (km)	1, 835
人口 (百万人)	446, 500
人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	1, 835
GDP (十億 US\$)	105. 1
一人当り GDP (US\$)	3, 199
主要鉱産物：鉱石	リン、銅、鉛、亜鉛、銀、マンガン
主要鉱産物：地金	鉛、コバルト
鉱業管轄官庁	工業・通商・エネルギー・鉱山省 (Ministère de l' Industrie, du Commerce, de l' Energie et des Mines)
鉱業関連政府機関	鉱物探査開発局 Bureau de Recherches et de Participations Minières (BRPM)
鉱業法	Mining Code (1951)
ロイヤルティ	3%
外資法	Investment Charter (1995)
環境規制法 (環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	Environmental Charter (2010)
鉱業公社	鉱物探査開発局 Bureau de Recherches et de Participations Minières (BRPM)
鉱業活動中の民間企業	Managem, Kasbah Resources Ltd 他
近年の鉱業関連問題 (資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	外資受け入れ促進を図るため、新鉱業法を現在策定中。2014年に制定目途。
2013年のトピックス	特になし

## 1. 鉱業一般概況

1999年にハッサン2世の逝去に伴い国王に即位したモハメッド6世は、法律遵守、複数政党制確立、経済自由化の改善に取り組んでいる。経済面では農漁業がGDPの約2割を占める主要なセクターとなっているが、モハメッド6世の政治手腕が評価され、最近では欧州企業等による製造業の新たな投資先としても注目されている。最近では、ルノー日産が2012年2月に北部タンジールで新たな自動車工場を開設している。GDP成長率に関しては、2011年は北アフリカ諸国では「アラブの春」によりマイナス成長を余儀なくされた国も多い中、モロッコは5.0%の成長率を達成しており、今後も堅調な成長が見込まれ、2013年は4.5%、2014年は4.8%の成長が予想されている。

モロッコの投資環境面での特徴として、欧米等主な貿易相手先とFTAを積極的に結んでいる点が挙げられる。EUとの間でのEuro-Mediterranean FTA、エジプト・ヨルダン・チュニジアとの間でのAgadir FTA、米国との間でのThe U.S.-Morocco FTAを締結している。このように、モロッコは穏健イスラムという宗教的な特色、またアフリカやアラブ世界へのゲートウェイとしての地政学的特徴を有することから、安定した投資先として特に「アラブの春」以降、徐々に投資家の関心が高まりつつある。

鉱物資源の生産に関しては、モロッコはリン鉱石の最大の輸出国であり、中国に次いで第2位の生産量を誇る。モロッコのリンは世界の需要の約27%を賅っており、モロッコ経済にとって重要な外貨獲得源となっている。モロッコの鉱業は輸出の14%を占め、またGDPの5%を占める重要なセクター

になっており、雇用面では、鉱業の就業人口は37,000人となっている。リン以外では、モロッコは世界で唯一、コバルトをプライマリーとした鉱床があり、USGSのデータによるコバルトの生産量(2013年予測)は2,100tで、世界第10位となっている。

リン鉱石の管理・採掘は国営リン鉱石公社(Office Chérifien des Phosphates(OCP))が独占的に行っているが、他の鉱物については民間企業による採掘が可能である。しかしながら実態的には、王家の管理する投資機関が株式の大半を保有する Managem 社がリン鉱石以外の採掘をこれまで主に行っており、メジャー企業の探鉱案件は現在のところ見られない。

## 2. 鉱業政策の主な動き

モロッコ政府は経済における鉱業の役割を拡大させるため、2014年中の公布を目指して現行鉱業法(1951年制定)の改正を行っている。新鉱業法では鉱業情報の整備により外資受け入れの促進を図るとともに、環境法や労働法遵守も盛り込むとしている。なお、新鉱業法には以下の項目が追加されると見られている。

- ・ 工業用途を含む全ての鉱物を新鉱業法の適用対象とする(建設等用途は除く)。
- ・ 鉱物の種別(現行法では8種)を無くし、これら種別による許認可の制限を廃止する。
- ・ 探鉱事業を促すべくコンセッション制を廃止し、新たな鉱業(探鉱部門を含む)機関を導入する。
- ・ 上記機関と操業者間での仲裁を行う委員会を導入し、事務手続きを簡潔化する。
- ・ 探鉱許認可条件及び更新期間を変更する。
- ・ 許認可申請を可能とする鉱山会社のステータスを定義する。

## 3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

### (1) 主要金属鉱石生産量

表 3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2011年 (千t)	2012年 (千t)	2013年 (千t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク
鉛	30.8	27.5	32.5	18.2	0.6%	17
マンガン	58.0	90.2	123.2	36.6	0.6%	17
銀	0.2	0.2	0.2	-1.3	0.9%	17

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2014)

### (2) 主要金属地金生産量

表 3-2. 金属地金生産量

鉱種	2011年 (千t)	2012年 (千t)	2013年 (千t)	対前年増減比 (%)	世界シェア (%)	ランク
コバルト	1.8	1.3	1.4	3.0	1.6%	13

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2014)

### (3) 主要金属消費量

データなし

### (4) 主要金属輸出货量

表 3-3. 金属地金輸出货量

鉱種	2011年 (千t)	2012年 (千t)	2013年 (千t)	対前年増減比 (%)
鉛地金	28.6	17.3	9.6	-44.5

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2014)

## (5) 主要金属輸入量

表 3-4. 金属地金輸入量

鉱種	2011年(千t)	2012年(千t)	2013年(千t)	対前年増減比(%)
亜鉛(千t)	13.5	-	7.3	-

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2014)

## 4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業(%)	鉱種	備考
Khouribga	OCP(100)	リン	
Youssoufia	OCP(100)	リン	
Benguerir	OCP(100)	リン	
Bou Graa	OCP(100)	リン	
Akka	Managem, Compagnie Miniere des Guemmass, Bureau de Recherches Et	銅	
Maatskappy	General Mining Union Corp	銅	
Bou-Azzer	Managem(100)	コバルト	生産能力 1,700t
Draa Sfar	Managem(77)、BRPM(23)	鉛 亜鉛	
Ousimi	Somima	銅、鉛、亜鉛	
Hajjar	Managem(77)、BRPM(23)	鉛、亜鉛	

(出典: 各社 HP)

## 5. 探鉱状況

表 5-1. 探鉱プロジェクト一覧

プロジェクト名	鉱種	企業名	備考
Achimmach	錫	Kasbah Resources Ltd (75), 豊田通商(20), 日鉄鉱業(5)	2016年生産開始予定 錫精鉱年産 5,300t
Aklay Placer	錫	BRPM(100)	
Boumadine	亜鉛、鉛、銀、金	Maya Gold&Silver Inc(80), ONHYM(20)	
Amizmiz	金、銅、モリブデン	Maya Gold and Silver Inc(100)	
Anti Atlas	銅、銀	BRPM(100)	
Bleida	銅、金	Managem(20)	
Bou El Jaj	錫	Kasbah Resources Ltd(100)	

(出典: 各社 HP)



図 1. 主要鉱山位置図

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

表 6-1. 日本への地金輸出量(マテリアル量)

鉱種	2011年	2012年	2013年	対前年増減比(%)
金地金(kg)	28.9	—	—	—
コバルト地金(t)	270	222.5	209.6	-5.8

(2) 日本企業による投資状況等

2014年6月、豪 Kasbah 社が 100% 保有する Achmmach 錫プロジェクト権益について、豊田通商が 20%、日鉄鉱業が 5% を取得した。豊田通商は、2012年3月に豪 Kasbah 社との間で MOU を締結し、一定金額を支払うことにより最大 20% の権益を取得できるオプションを得ていた。同プロジェクトは DFS を経て 2016 年に生産を開始する見通しで、錫精鉱年産 5,300t と世界で 8 番目、アフリカでは最大の錫鉱山となるとみられている。

7. その他トピックス

モロッコはガボンとの間で天然資源開発を強化するため、肥料産業分野での戦略的パートナーシップの構築と鉱業セクターでの人材育成及び情報共有に関する協力に向けた 2 件の協定を 2014 年 3 月に締結した。両者は探鉱プロジェクトの共同調査を通して技術移転を行う他、鉱業セクターの管理運営といったガバナンス分野でも協力を図っていくとしている。

(2014. 7. 30 ロンドン事務所 竹下 聡美)